

嬉野医療センターを受診された患者さまへ

研究情報公開について

通常、臨床研究を実施する際には、文章もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	経鼻胃管の咽頭内交差の確認方法に関する検討
研究責任者（所属名）	久永 将史（耳鼻咽喉科）
本研究の目的	経鼻胃管は多くの病院、診療科で広く用いられており、留置する際の注意点として気管誤挿入、食道穿孔、チューブ先端の位置異常などをマニュアルや指導書などで散見されます。しかし、胃管の咽頭内交差に関しては、文献や学会などでの報告も少ないです。経鼻胃管の咽頭内交差があると、喉頭蓋の反転阻害による嚥下機能の低下や、時に経鼻胃管症候群などの重篤な合併症を生じる可能性が指摘されていますが、実臨床において咽頭内交差が確認されることは稀です。何らかの確立された評価方法が現時点で存在しないというのも一因と考えられます。このことから、過去のデータから当院における経鼻胃管の咽頭内交差の発生状況を把握し、咽頭内交差を疑ったときに容易に確認できるスクリーニング方法がないかを検証します。
調査データの該当期間	2020年 4月から 2022年 12月まで
研究の方法 （使用する試料等）	2020年4月から2022年12月にかけて当科で内視鏡下嚥下機能評価を行った462例のうち、検査時に経鼻胃管が留置されていた101例を対象として、胃管の咽頭内交差の有無と口腔内から見た中咽頭の所見を確認します。画像は電子カルテの内視鏡画像に保存されているものを使用し、中咽頭の所見から胃管の咽頭内交差が予測できるかを検証します。
個人情報の取り扱い	利用する情報から、氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除した状態で取り扱われます。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 （利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：0954-43-1120（代表） 担当者：管理課長
備考	